

日本医師会の遠隔医療 に対する基本的考え方

平成20年5月21日

日本医師会 内田健夫

医師会総合情報ネットワーク

- ①医療政策立案と都道府県医師会に対する情報システム
- ②地域医療活動の計画・管理・運営を支援する情報システム
- ③医師(会員)に必要な情報を提供する情報システム

5つの基本方針

- ①国民ならびに医療関係組織(者)から信頼される医師(会)活動を支援
- ②国民ならびに医療関係組織(者)に開かれた医師(会)活動を支援
- ③地域における保健・医療および福祉活動の円滑で効果的な連携を支援
- ④より質の高い保健・医療および福祉サービスの提供を支援
- ⑤時代の変化に適応した保健・医療および福祉計画の策定を支援

ORCAプロジェクト

平成12年（'00年）4月
「医師会総合情報ネットワーク構想」の
一環である「ORCAプロジェクト」スタート

ORCAプロジェクトの意義

1. ネットワーク構築推進
2. 情報化における標準化推進
3. 各種データの収集
4. その他（会員サービス）

日医IT化宣言(冒頭文)

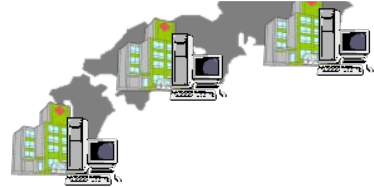
平成13年11月20日

日本医師会は、医療現場のIT化(情報技術)を進めるため、土台となるネットワークづくりを行うことを宣言します。まず、各医療現場に標準化されたオンライン診療レセプトシステムを導入し、互換性のある医療情報をやりとりできるようにする計画(ORCA ,Online Receipt Computer Advantage)を推進します。この計画のために日医が開発したプログラムやデータベースは全て無償で公開されます。医療現場の事務作業の効率化を図り、コストを軽減させると同時に、誰もが自由に利用できる開放的なネットワークを形成し、国民に高度で良質な医療を提供することをめざします。

レセコンをネットワーク端末へ[ORCAプロジェクト]

公開ソフトウェア(オープンソース)方式
によるレセプトソフトの提供

単独で稼働



- 単独のレセプト専用機
→ 普及率80%以上
- 高価

改善



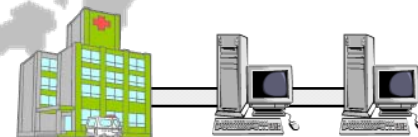
ネットワークセンター

- ・バックアップ
- ・マスタ更新
- ・データの暗号化によるセキュリティの確保



メーカー
ベンチャー

ORCAとは
今後の医療のIT化というものをレセコンの高機能化
という切り口で考えた目医での研究プロジェクト



院内LAN

「オンライン型多機能レセプト端末」

日本医師会のTV会議システム

1. 経緯

- ◆平成17年10月より日医一都道府県医師会間でテスト運用を開始
- ◆平成18年度、IT化推進検討委員会等で本格的に利用開始
- ◆委員会での利用の他、日医で開催するイベントを都道府県医師会に配信。
- ◆都道府県医師会一郡市区医師会間での利用も各地で実施中。

※10分割画面の例



遠隔医療に対する基本的考え方

- 対面診療を原則とすること
- 遠隔医療（IT技術）は補完的に使用すること
- 医師不足・確保対策の一環であること
- 地域の住民にIT技術のニーズがあること
- 地域医療連携に資するものであること
- 緊急時対応システムが併設されていること
- 遠隔医療システムに汎用性と継続性があること

遠隔医療の範囲について

離島・へき地等、対面診療が困難な場合
医師不足等、遠隔医療が不可欠な場合

- ・慢性期疾患(在宅)への支援
- ・病状安定患者(在宅)への支援
- ・地域医療連携への活用
- ・妊産婦の保健指導・相談等への活用
- ・健診・相談・教育への活用
- ・遠隔画像診断への活用

遠隔医療の課題

- ・リスクと責任の所在
- ・プライバシーの保護
- ・限られた資源と費用対効果
- ・身近なツール活用(経済性)と簡便な操作
- ・医療の質・安全対策の担保
- ・これまでのモデル事業の検証

遠隔医療の推進と費用負担

1. 医師対医師・医療従事者

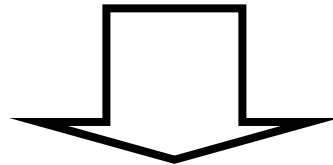
- ・対面診療の補完的な役割 → 既に診療報酬適用
- ・医師コミュニティの支援:カンファレンス、研修会等

2. 医師対患者

- ・在宅医療の支援

3. 患者対患者

- ・患者コミュニティの支援



①患者 ②医師 ③医療機関 ④補助金 ⑤その他